

終業式に代えて

令和2年3月23日（月）

3月23日の終業式で本来なら、皆さんの前でぜひお話をしたかったのですが、一連のコロナウイルス騒動で学校が臨時休業となってしまいました。皆さんにメッセージを送ることによって講話に代えたいと思います。

激動の令和元年度でした。この1年を振り返ってみると、実に様々な出来事がありました。皆さんにとって関心の高いものでは、来年度から実施する大学入学共通テストで、英語の民間試験利用が見送られること、国語・数学の記述問題の実施が見送られることなどがありました。また、昨年10月には消費税が10%に増税されました。

そして、今年度の最後に起こった新型コロナウイルスの感染拡大です。このように長期間にわたり学校が休校になるのは、平成7年の阪神淡路大震災以来ではないでしょうか。

今回のコロナウイルス騒動について、一つ雑感を述べたいと思います。ニュースでも報道されて皆さんも知っていると思いますが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため休校となっているイタリアのミラノ市内の高校の校長、ドメニコ・スキラーチェさんが、学校のホームページに「生徒への手紙」として掲載したメッセージについてです。

スキラーチェ校長は、ペストで混乱した17世紀のミラノを描いた文豪マンゾーニの「いいなづけ」という作品を紹介しました。

イタリアでは14世紀にペストが大流行し、ヨーロッパ人口の30～60%が死亡し、多くの町や村が消滅。世界人口も4億5千万人から3億5千万人へ、1億人ほどが死んだとされています。

校長先生は、「外国人への恐怖、感染源のヒステリックな搜索や、専門家の軽視、デマ、必需品の略奪。これらは昔の小説からではなく、きょうの新聞から出てきたかのようだ」とつぶっています。「社会生活や人間関係を汚染するものこそが新型ウイルスがもたらす最大の脅威だ」と言っています。また、「いいなづけ」の中では「人々が不安になっている時には、話を聞いただけであたかも見たような気になってしまうものだ」とパニックに陥った時の人間の心理を描写しています。

さて、今回の「いいなづけ」という作品が発表されたのは100年以上前（1827年刊行）のことですが、今回の一連の騒動の中で何か教訓にできることはないでしょうか？

そうです。マスク、トイレットペーパーが店頭から消えてなくなりました。何か見えない不安が人々の行動を掻き立て、あのような消費行動に移させたのでしょうか？

実は50年ほど前の1973年（私が小3の頃の話です）オイルショックがあり、あの時もトイレットペーパーの買いだめ騒動が起きました。当時トイレットペーパーの在庫は十分だったと言われていましたが、実際は買いだめ騒動が起きました。背景には物価の急騰、水洗トイレの普及等、庶民生活の変化による不安定な心理があったと言われています。

50年後の今、今度はSNSで誰かが「トイレットペーパーは中国産」とつぶやいたところから全国に波及したと言われています。50年たっても人の心理は変わらないのでしょうか？

今回の騒動を受け、皆さんの行動はどうでしたか？朝早くからドラッグストアに並びましたか？お父さんお母さんはどうでしたか？中には、「いつ入荷するんだ！」「個数制限する等けしからん！」といった人もいるとか。

スキラーチェ校長は、「冷静さを保ち、集団の妄想にとらわれず、いつもの生活を送ってください。スーパーや薬局に駆け込むのはやめましょう。マスクは病気の人のためのものです。17世紀と比べて私たちには現代の医学があり進歩し、正確になりました。社会と人間性という最も大切な財産を守るべく、合理的な考えを持ちましょう」と呼びかけ、デマなどに振り回される風潮に警鐘を鳴らしました。そして、「ペストが流行した時代と違い、今は近代科学がある。人間性や社会性といった私たちの貴重な財産を守るために合理的な考えを持とう。そうでないとペストが勝ってしまうかもしれません」と言われました。

今回の騒動を見ながら、私が校長として伝えたいこと、それは、市高生の皆さんには知性を持ち合わせてほしいということ。どのような困難が目の前で起こっても、にあきらめずに、冷静に頭をつかって冷静に行動できる人間になってほしいということです。

今年度の最後に皆さんに考えてほしいことを述べました。コロナウイルス騒動が一日でも早く落ち着き、皆さんが学校に戻ってくるのを楽しみにしています。

伊丹市立伊丹高等学校 校長 野崎 雅弘